

●文法訳読法

批判

●ナチュラル・メソッド(19C)→後に直接法

◎サイコロジカル・メソッド (グアン、山口喜一郎) (動作をしながら文にする。グアンメソッド、シリーズメソッドともいう。)

◎ベルリッツ・メソッド (ベルリッツ) (母語は使わない)

◎オーラル・メソッド (パーマー、長沼直兄)

(聞く・話す→第一技能、読む・書く→第二技能。称号と融合。PPP(導入・練習・応用)。絵カード、リアリア、ジェスチャー)

◎GDM (Graded Direct Method。段階的直説法。SEN-SIT。演繹的。Basic English(850語) 。語彙を最小限にする。)

●直接法

●行動心理学に基づく教授法

◎ASTP (アーミー・メソッド) (第二次世界大戦、精鋭少人数、行動心理学、構造心理学、ドリルマスター)

◎オーディオ・リンガル・メソッド (1950年代) (フリーズら)

(第二次世界大戦後。制限作文アプローチ。構造心理学、行動心理学。刺激→反応→強化 (パブロフの犬) 。

LL (Language Laboratory) 。パターンプラクティス、ミニマルペア、ミムメモ練習。



批判 1960年代 チョムスキー 生成文法理論 (先天的に言語能力を持っている)

●ヒューマニスティックな教授法

◎サイレント・ウェイ (ガッデーニョ) (教師は話さない。ロッド、カラーチャート)

◎コミュニティ・ランゲージ・ラーニング (カラン)(カウンセリング。目標言語の学習。振り返りは母語)

◎TPR (アッシャー) (Total Physical Response 全身反応教授法。Walk, Run, Go to sleepなどに従って動作をする)

◎サジェストペディア (ロマノフ)(クラシック音楽。プリセッション、セッション、ポストセッション)

●コミュニケーションにつながる教授法

◎コミュニケーションティブ・アプローチ (意味が伝われば正確な文でなくてもいい。学習者中心 (ニーズ分析) 。インフォメーションギャップ、フィードバック、ルールプレイ、ディスカッション、プロジェクトワーク。文法能力、社会言語学的能力、ストラテジー能力、談話能力)

◎タスク中心の教授法 (文法もコミュニケーションも。フォーカスオンフォーム。インターアクション仮説。課題遂行能力。タスクシートを使用したタスク。)

◎ナチュラル・アプローチ (テレル)

(無意識的習得は意識的学習より優れている、聴解優先。コミュニケーション能力の向上。LL/リラックスした状態で教師がインプットを口頭で与える。モニター・モデルを応用。モニターモデルは習得・学習仮説 (習得と学習はつながらない。習得の方が優れている) 、自然順序仮説 (一定の順序) 、モニター仮説 (学習で得た知識を使って修正) 、インプット仮説 (少し上のレベル i+1) 、情意フィルター仮説 (気持ちでインプット量が変わる) 。